た。佐賀でなかったら絶対に潰れていました。多久市も学生時代から、よく伺わせていただいた場所です。

AI・IoTは人の職を奪う？

市長：まず、AIやIoTの今後の役割を教えてください。

菅谷：AIやIoTは人の職を奪うという意見もありますが、私は今まで膨大な手間がかかっていたことを、簡単にしてくれる、あるいはやらなくていいようにしてくれるのがAIやIoTの力だと思っています。

昨年、初めて農業でAI・IoTを活用して100％無農薬のお米が収穫できました。これまで有機栽培農家の人は夏の炎天下の中、害虫を探し1匹1匹ピンセットで駆除し、そこだけにスプレーをかけて駆除されていました。それがAIとドローン（小型無人航空機）で、害虫の捕獲と駆除が可能になり、手間と時間が削減されました。生産者はその時間で「どうやって売ろう」「どこに売ろう」とクリエイティブなことに時間を使うことができるようになります。

市長：無駄を省き、その時間を産業や地域づくりの活性化のために、さらにAI・IoTの活用を考えていけますね。「こうした方がいいのに」「こんな無駄いらないのに」ということがIoTで解決できる時代だからこそ、行政でも仕事を見直し、AI・IoT・ICTの活用が必要だと思います。窓口で申請書類も簡単に作成できれば市民のみなさんにとって便利になります。

菅谷：市役所には優秀な人材がお集まりになられていますが、その業務自体は我々の生活を守るために非常に煩雑になっているようです。そういった業務を少しでもAIやIoT・ロボットが処理することで、より価値的なことに時間を使えれば、市民のみなさんがもっと豊かな生活を送れるのではないかと思います。現在、佐賀大学内では無人店舗を営業していますが、地方からのニーズが多いです。

市長：市役所などの窓口でバーコードを用いて証明書が取れるなど、可能性が出てきますよね。スマートフォンのアプリも日々バージョンアップしています。行政は少しずつ改善していますが、スピードが遅い。サービスを日々新たにしていかないと、利用者側の使い勝手が悪くなりますよね。そういう視点から行政も常に新しく変えていくというのは重要です。

ICT教育の取り組み

市長：市では総務省の実証実験活用や事業者と連携し、ICT教育を行っています。学力向上に取り組むと共に、一方では教員の働き方改革にも取り組んでおり、開始3か月程で残業時間が減ってきました。

菅谷：それは素晴らしい！先生